

「幸せを実感できる」まちづくりに向け

小野町長 大和田 昭



輝かしい新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

町民の皆さまには、ご家族おそろいで平成30年の初春をお迎えのことと存じます。

昨年、町長として2期目の町政の重責を担うことになり、町民の皆さまの信頼と期待に応えるべく、新たな決意と情熱をもって町政の執行にあたってまいりました。

振り返りますと、昨年は小野町にとりまして大変うれしい話題がたくさんありました。春先からは小野運動公園内に子どもの屋外遊び場が整備され、多目的運動施設と合わせて「スマイル公園」の愛称のもと、子どものスポーツ

や遊び場の拠点として活用いただいております。5月には町の観光拠点となる「リカちゃんキャッスル」がリカちゃん生誕50周年を記念してリニューアルオープンし、多くの観光客で賑わいました。町もふるさと納税返礼品に限定500体のリカちゃん人形を採用し、大変大きな反響をいただきました。6月には小野町消防団が歴史と伝統ある「民報金ばれん」を受賞しました。また鶴庭工業用地で操業を目指し工場建設を進めておりました事業所が操業を開始し、町民の雇用拡大と地域振興に大きな役割を果たすものと期待しているところですが、8月には小野高校と交流協定を締結している沖縄県立八重山農林高校の生徒たちが小野町を訪問し、交流イベントを開催しました。また町は小野高校と連携し、地域資源を活用して取り組んでいる6次化商品の「ミネラルトマトうどん」について、10月に交流の一環として小野高校が八重山農林高校を訪問し、販売実習を実施しております。さらに高校生の料理コンテストの全国大会で、アレンジした「ミネラルトマトうどん」が準優勝に輝きま

した。

また協定締結として、学校法人郡山開成学園と「包括連携に関する協定」を締結しました。町の事業、特に健康栄養および福祉の増進、食の安全確保、食品開発などへの助言や人材育成・確保などについて、効果的な事業が実施できるものと考えております。

只今申し上げますが、すべしは「町民が望む」まちをつくるべく取り組んできた結果であります。

私は、引き続き町の喫緊の課題として捉えております、人口減少対策に取り組んでいく覚悟であり、現在、平成30年度からの新たなまちづくりに関する振興計画の策定を進めているところであり、昨年、私が直接、子育て世代や農業、商工業などの団体の方々と意見交換を行ったところであり、これら意見などを反映させ平成30年度からの新たな町づくりの指針としてまいります。

その中で、認定こども園をはじめとする公共施設の整備や小野インターチェンジ周辺開発について強力で推進

するとともに、公立小野町地方総合病院の常勤医師確保、夜間・救急患者受け入れ体制実現に向け取り組みを進め、子育て支援の充実を図り少子化による急激な人口減少に歯止めをかけるとともに、交流人口拡大による地域の活性化を図ってまいります。

そして、小野町は地震をはじめ、災害に強く、自然が美しいあぶくま高原の交通の要衝という特色を全国に発信し「農商工」の調和のとれた発展を成し遂げるため、町民の心を映す謙虚な気持ちで「人の心通い」、そこに住む人たちが「住んでいてよかった」「これからも住みたい」と笑顔で言っていただけ「幸せを実感できる」まちづくりのため「オール小野町」で取り組んでまいります。

新年を迎え新たな決意をもって、一歩一歩着実に歩みを進めてまいりたいと考えておりますので、今後ともご支援、ご協力をお願いします。

結びに、すべての町民の皆さまのご健康とご多幸を祈念申し上げます。年頭あいさつとさせていただきます。

